

ソフトウェアテストのワークショップイベント **WACATE**のご紹介

WACATEとは

Workshop for Accelerating CApable Testing Engineers

WACATE
Workshop for Accelerating Capable Testing Engineers

内に秘めた可能性を持つテストエンジニアたちを
加速させるためのワークショップでありたいという想い
からこのワークショップイベントをワカテと命名



若手が積極的に切磋琢磨できる 「場」がないのではないかな？

ないなら創ってしまおう！

2007年頃、先駆者のおかげでテストのコミュニティやシンポジウムや勉強会など、様々な「場」があったものの、次代を担う若い人が積極的に切磋琢磨できる場が少ないのではないかなということで、「ないのなら創ってしまえばいいじゃないか！」と相成った。その想いに賛同する人が集まり、WACATEという場を立ち上げたのがはじまりである。

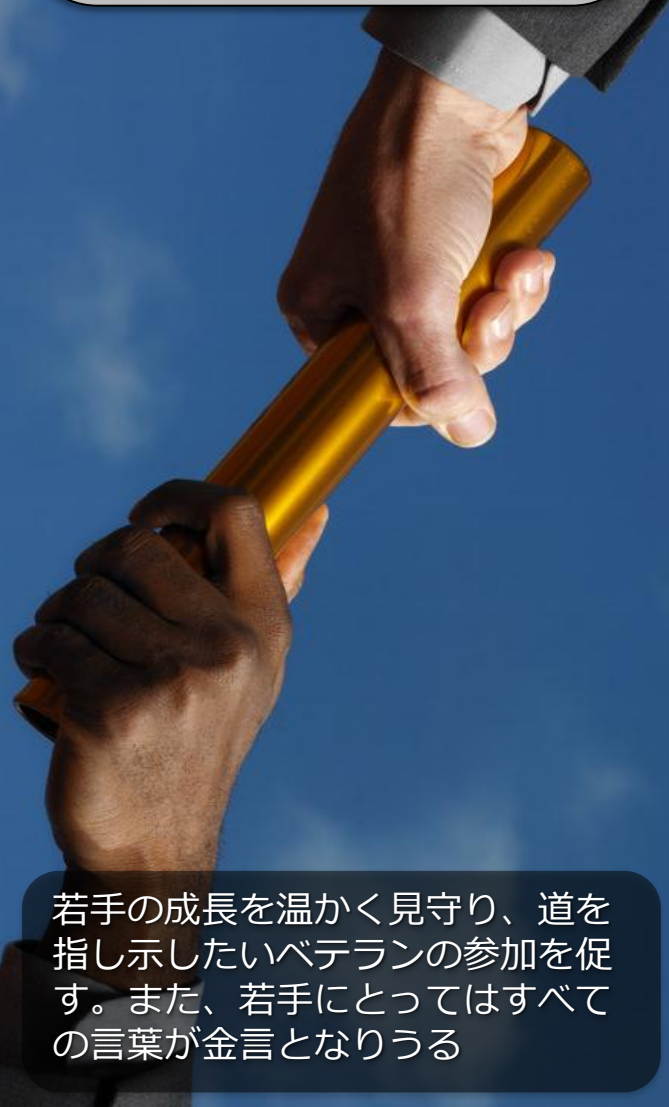
WACATEのコンセプト

若手主導



企画、運営、そして参加者、すべてが若手の若手による若手のためのもの。もちろんベテランの助けも借りますが主体は若手

技術継承



若手の成長を温かく見守り、道を指し示したいベテランの参加を促す。また、若手にとってはすべての言葉が金言となりうる

合宿形式



若手にとっては大きな金額、つまり覚悟がある人が参加する。ただの無料セミナーではない、自分で腹を切る覚悟のある人が集まる

全員が共に学び成長する場

参加者

様々な情報に触れること、そして仲間同士交流することで刺激を得ながら広い視野を獲得

講師

若い人へ発表の場を提供。実行委員や参加者は発表を行うことで、講師としての経験を積む

実行委員

WACATEの企画、運営を通してプロジェクト運営の経験を積み、また様々な機会を得られる

「夏と冬」二種類のWACATE

WACATEは夏と冬とでプログラムの構成を変え、それぞれ特徴を持っています



WACATE2008 夏
WACATE2009 夏
WACATE2010 夏
WACATE2011 夏
WACATE2012 夏

一つのテーマをどっぴりと深く扱う夏のWACATE。疑似プロジェクトなどを通じて最終成果物を作成することで、理解を深められる



WACATE2007 冬
WACATE2008 冬
WACATE2009 冬
WACATE2010 冬
WACATE2011 冬

様々なテーマを扱い、色々なトピックに触れて頂く冬のWACATE。多種多様なセッションから、是非新しい知見を得られる

5th
Anniversary

WACATE2012冬

2012年12月15日(土)～16日(日)

WACATE

Workshop for Accelerating CAbble Testing Engineers

WACATEは、若手テストエンジニアによる、若手テストエンジニアのための、
若手エンジニア向けワークショップ



松尾谷徹氏による CFD++セッション決定

120分



村上くにお氏によるキャリアについてのご講演



テストのアプローチに
データ分析結果を使おう

中野さやか(WACATE実行委員)



かいてみようCFD

近江久美子(WACATE実行委員)



テスト分析はじめての一步

上條飛鳥(WACATE実行委員)

開催概要

主催: WACATE実行委員会

日時: 2012年12月15日(土)~16日(一泊二日 4食付き)

場所: マホロバ・マインズ三浦(神奈川・京浜急行三浦海岸駅徒歩5分)

<http://www.maholova-minds.com/>

合宿費:

35歳以下(若手): ¥22,000

36歳以上(ベテラン): ¥25,000

※宿泊費、宴会費、食費、会場費、印刷費、その他運営にかかる事務
費含む(キャンセル不可)

合宿費は開催当日受付にて、現金でお支払いください。引き換えに領
収書を発行いたします。

申し込み〆切2012年12月2日(日)

お申し込みはコチラ→

<http://wacate.jp/>

WACATEをまとめると...



若手をメインターゲット



ワークショップ中心



勉強会の大きい版



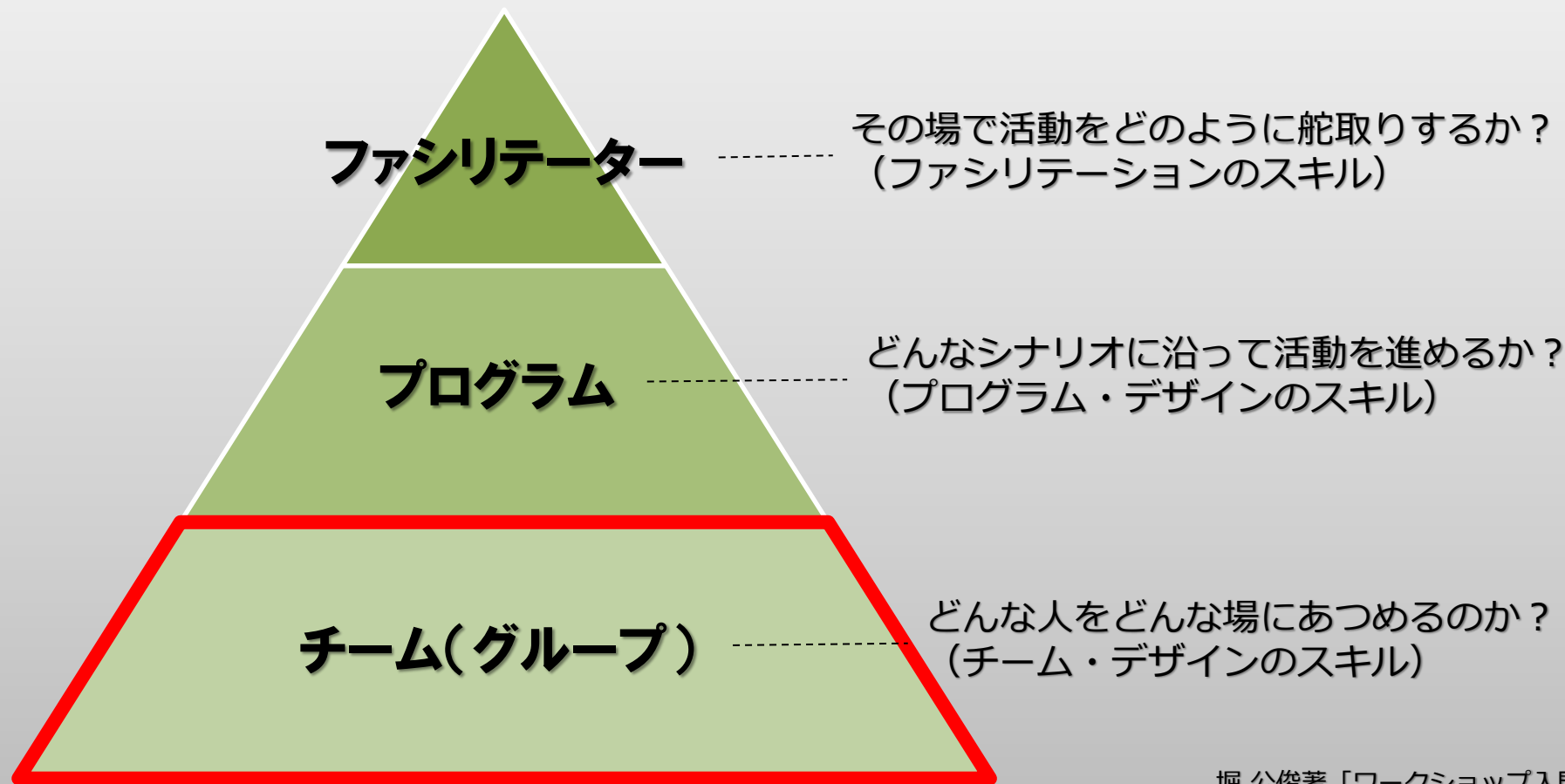
一泊二日の合宿形式



夏と冬の年2回開催

データでみるWACATE

ワークショップをより効果的に



堀 公俊著「ワークショップ入門」より

ワークショップの構成要素には3つあるが、その基礎となるのがチーム(班)である。WACATEでは議論するのに最適な5～6人程度の班に分けて様々なワークショップを行う。そして、より効果的なワークショップにするため、単に人数を分けるだけではなく、様々な要素を考慮した上で班を構成している(詳細は次以降で説明)。

参加者の属性を考慮して班を構成

集まるメンバーによって班の性質は変化する。WACATEでは様々な気づきを得てもらうため、なるべく異質性の高いチーム構成になるように班を構成している。但し、ソフトウェアテストというキーワードに集っているため、ある程度同質性を持った上で異質性を高めることができる。



異質性の高いチーム

- ・ チームの立ち上げ遅め
- ・ 成果物のまとめも遅め
- ・ 失敗リスク高
- ・ 創造力・意外性高い
- ・ ハイリスク/ハイリターン型



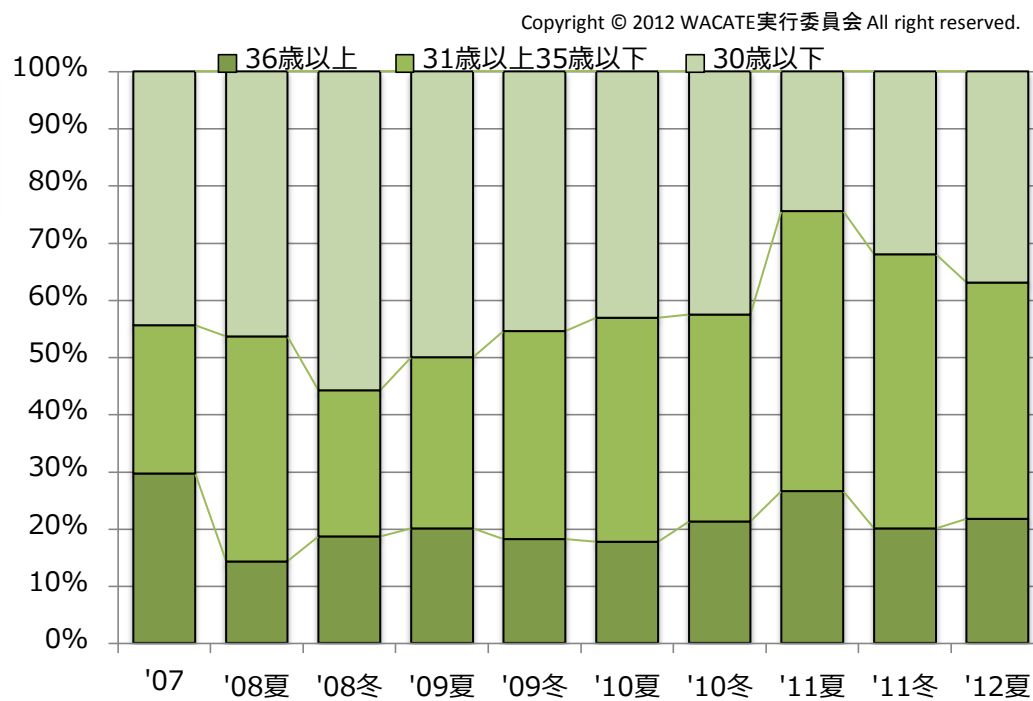
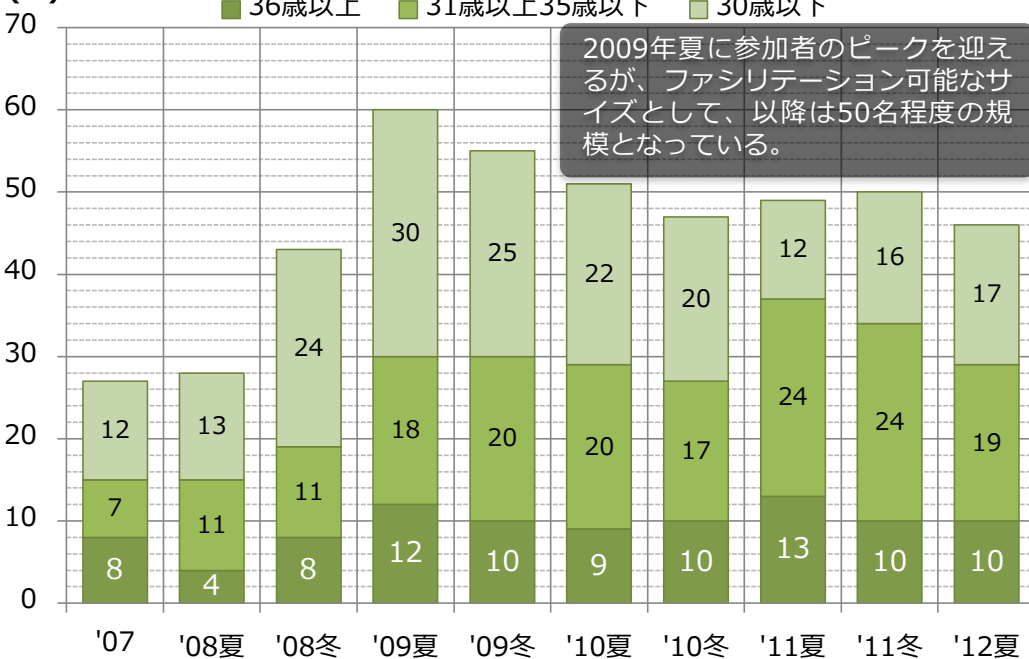
同質性の高いチーム

- ・ チームの立ち上げ遅め
- ・ 成果物のまとめも早め
- ・ 失敗リスク低
- ・ 創造力・意外性低
- ・ ローリスク/ローリターン型

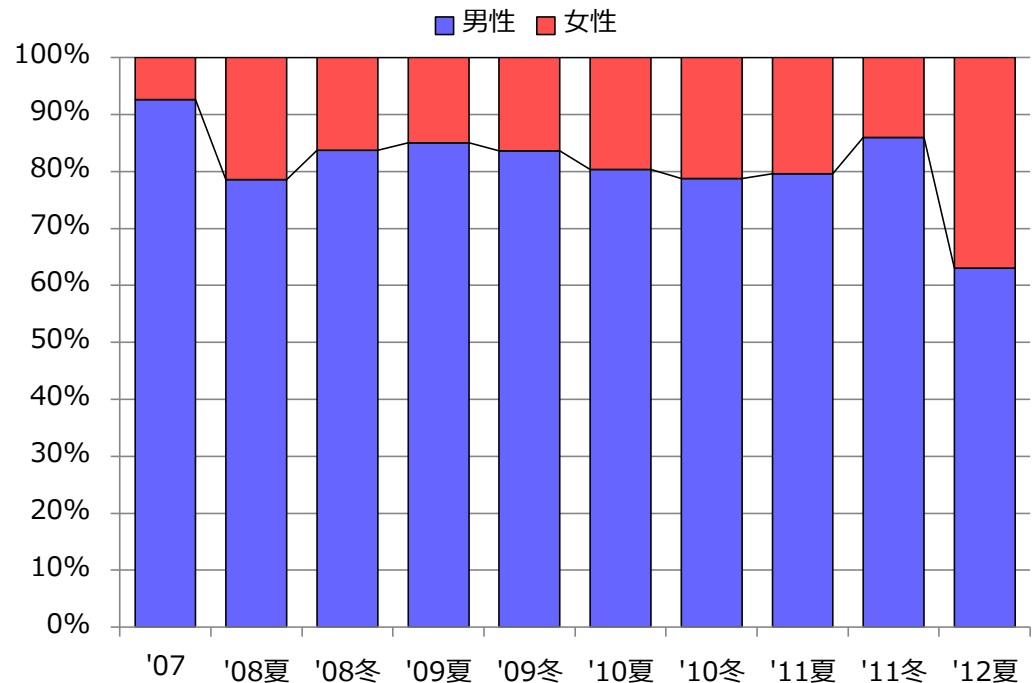
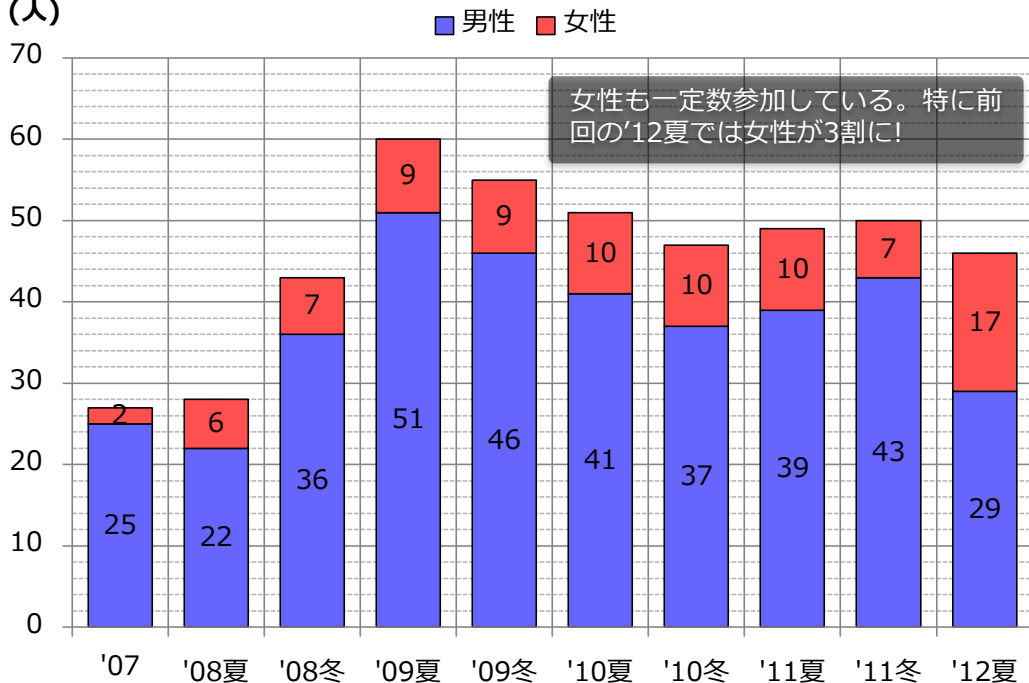


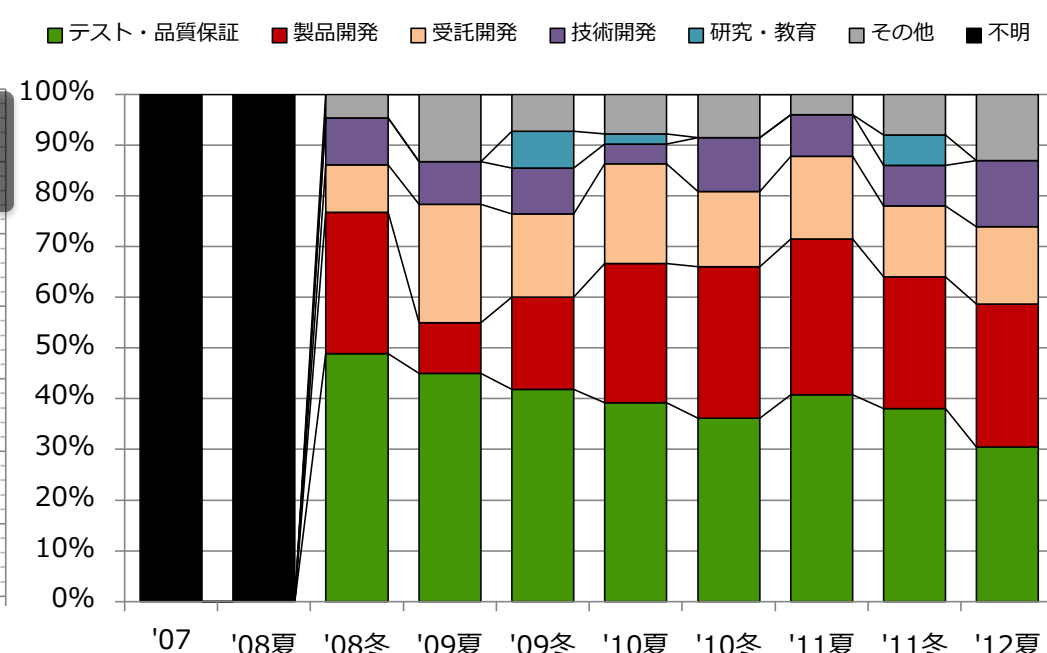
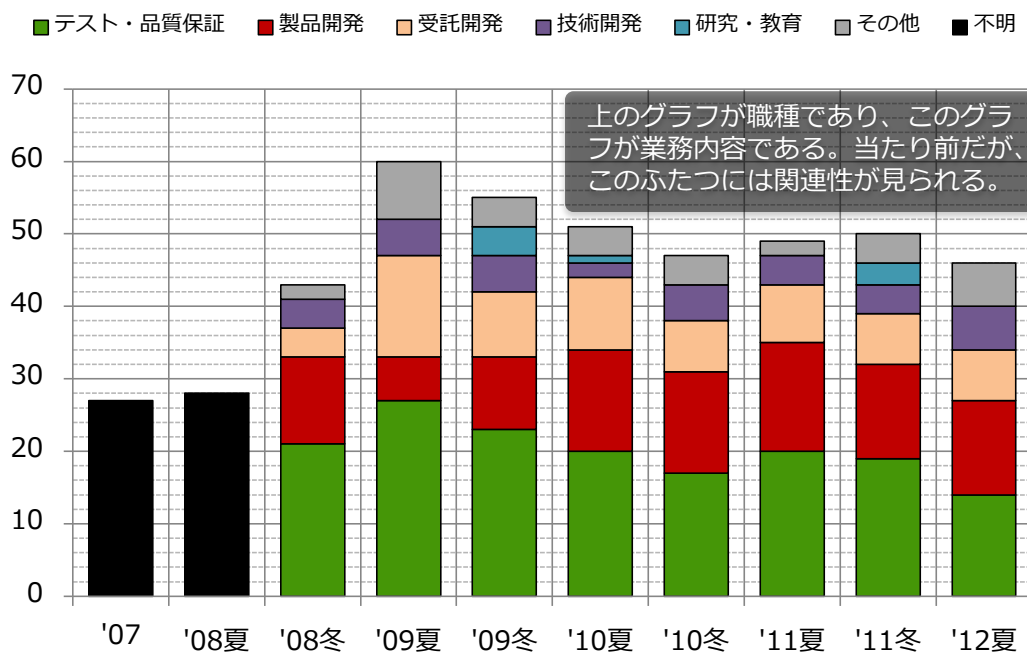
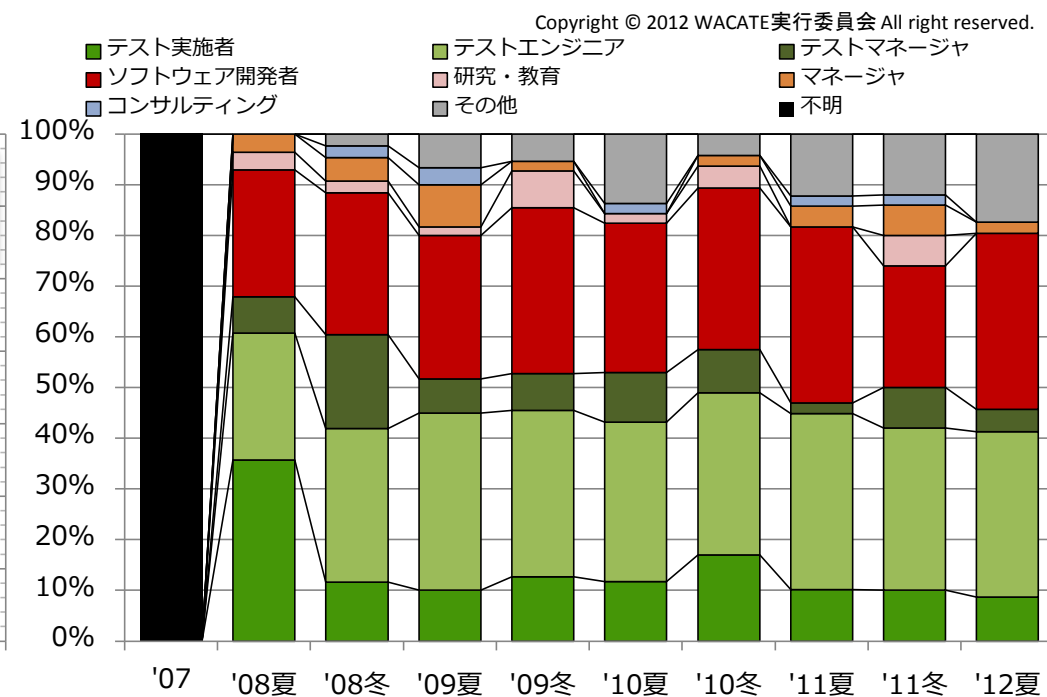
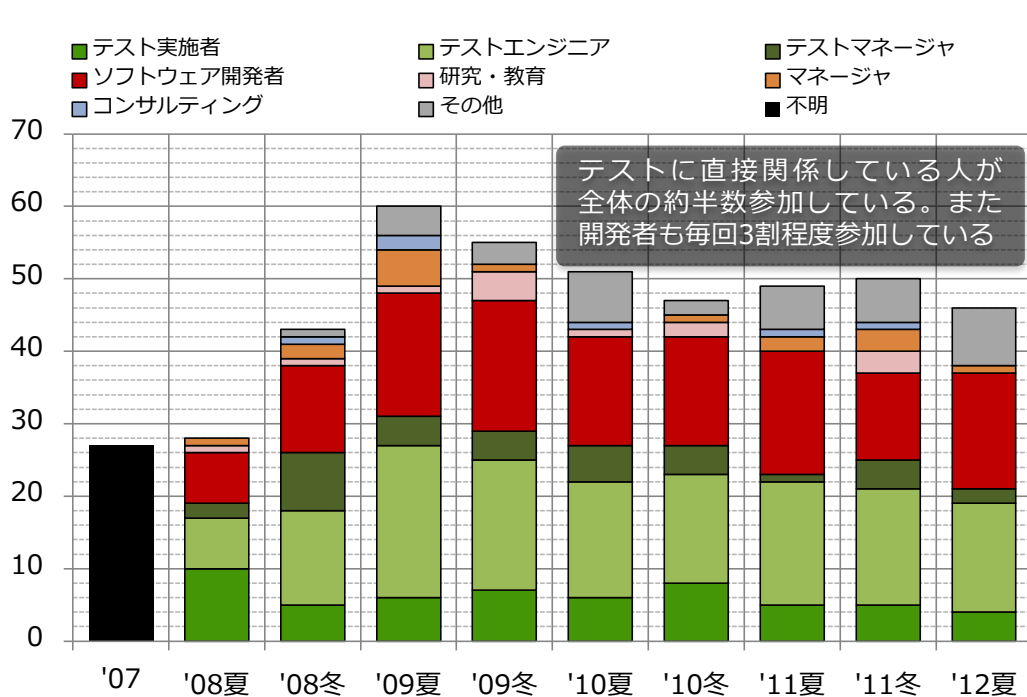
性別	年代	参加回数	業種
男性	30歳以下	初参加	組込系
女性	31-35歳	複数回	Web系
男性	36歳以上	常連	エンブラ
			パッケージ
			etc
職種	業務内容	地域	その他
テスト管理者	製品開発	北海道	会社
テスト技術者	受託開発	北陸	ノートPC有無
テスト実施者	技術開発	関東	etc
開発者	テスト品質保証	東海	
マネージャ	etc	関西	
etc		九州 etc	

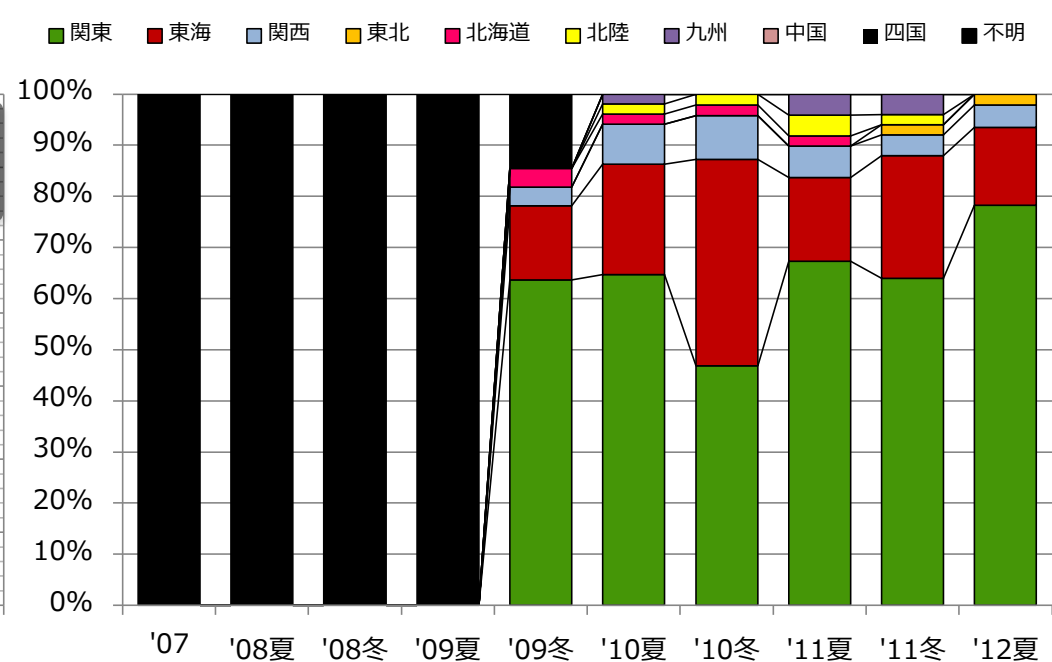
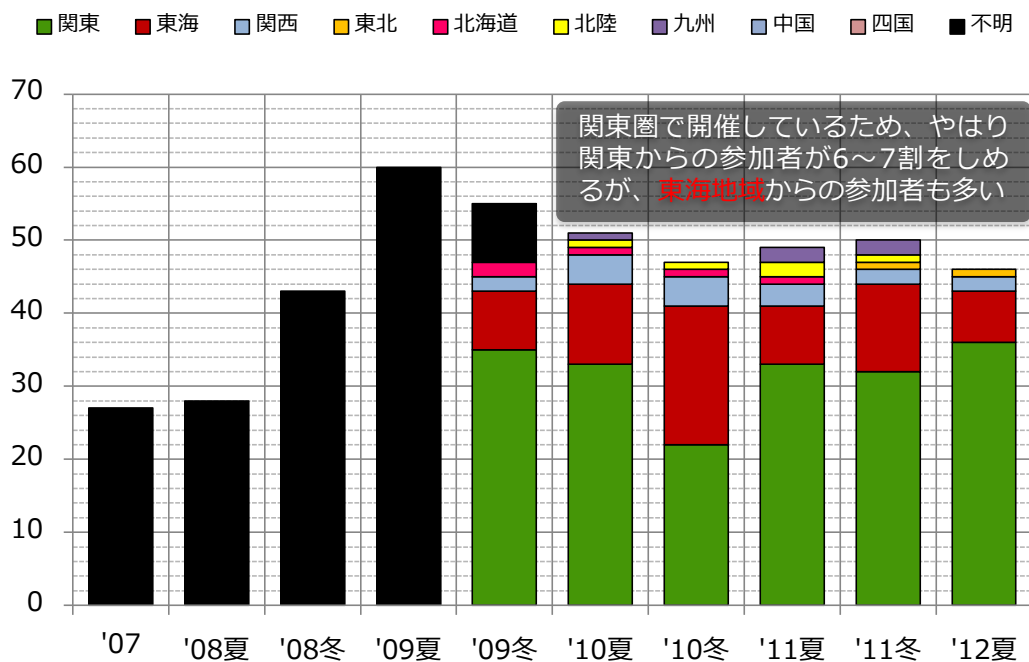
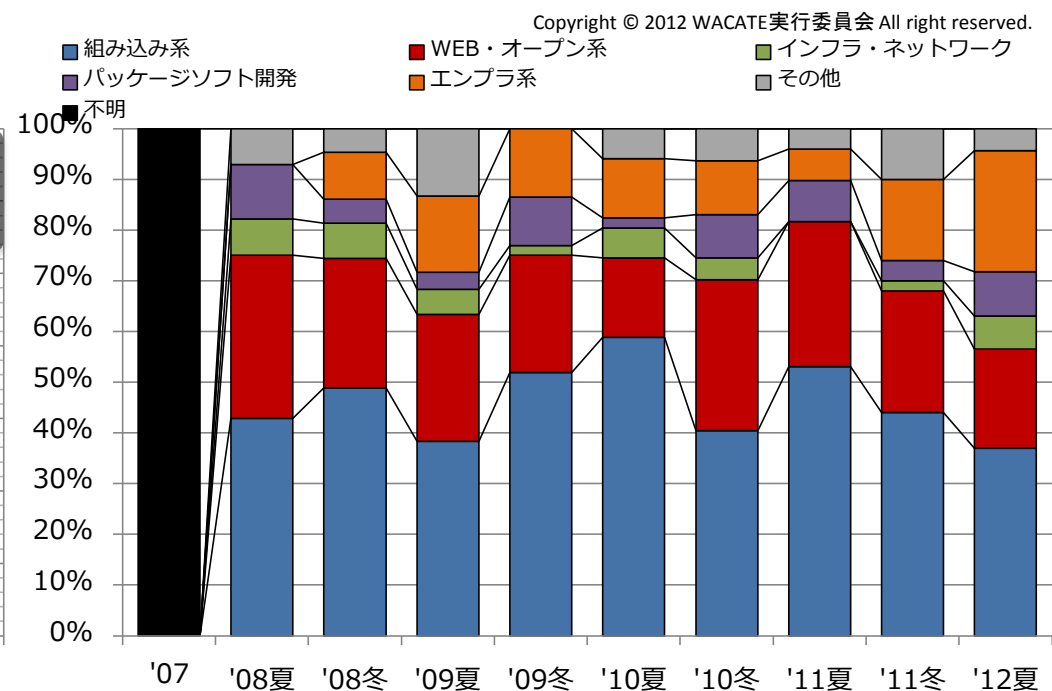
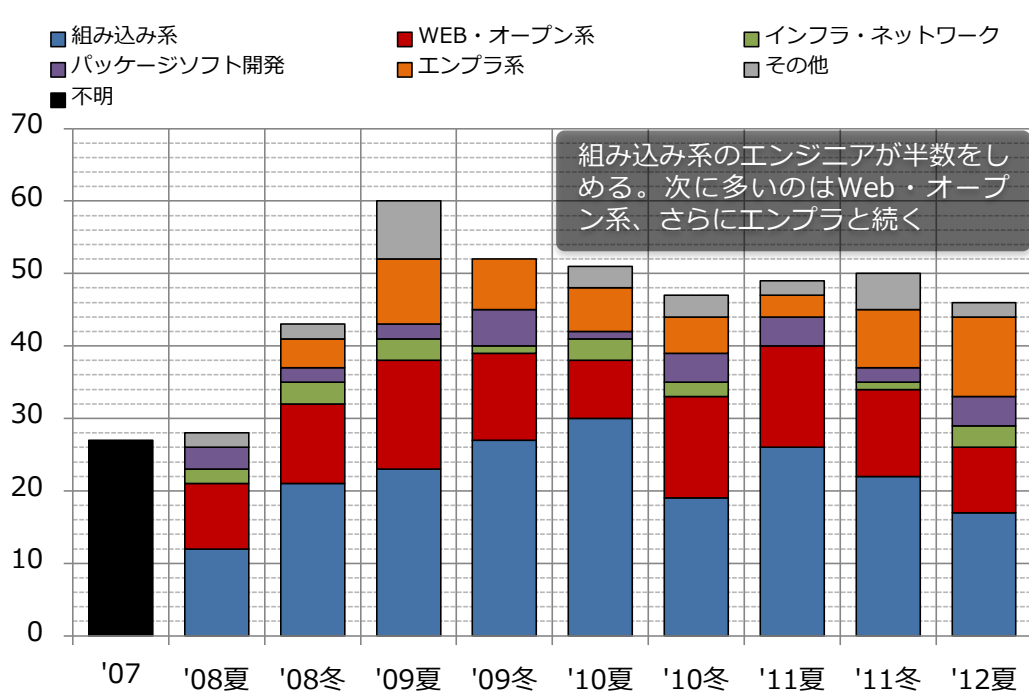
(人)

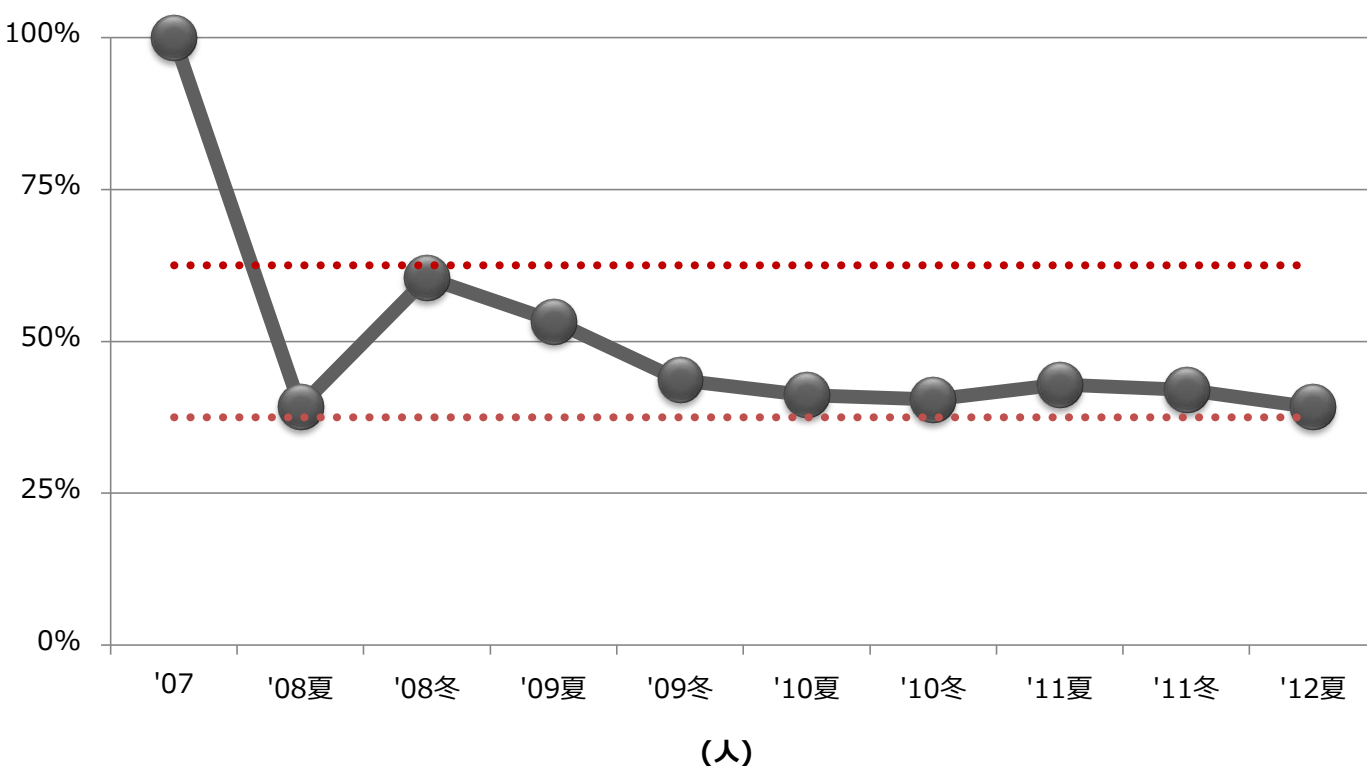


(人)







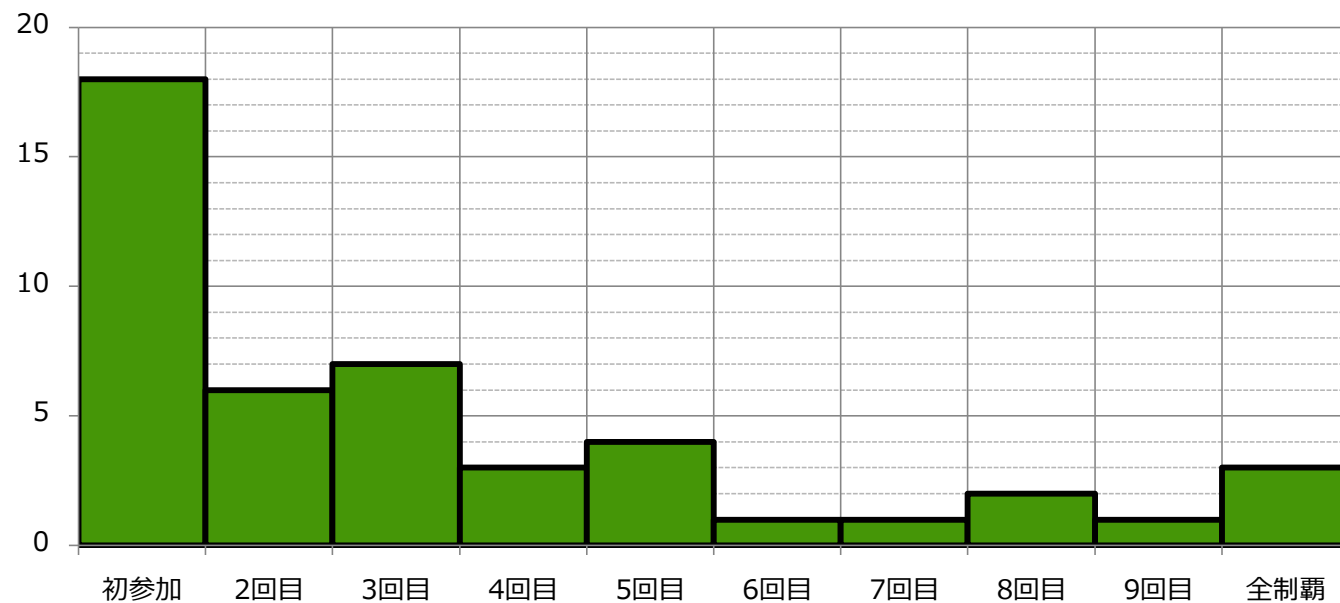


初参加者率による管理図

常連さんだけ、またその逆に初参加者だけといった偏りがあると、イベントとしては健全ではない。イベントの健全性を示す指標のひとつとして管理図で視覚化している。管理限界の幅は、狭めに設定しているが、現在のまで管理限界を超えていないことが分かる

参加回数のヒストグラム

WACATE2012 夏の参加者データから、参加回数をヒストグラムにしたもの。5回以内の参加者が大半で、6回目以上は、かなり少なくなることが分かる。恐ろしいことに、過去10回のWACATEにすべて参加している人が3人もいる





詳しくはWebサイトをご覧ください
<http://wacate.jp>